

## 保幼小連携の目的

- 連携協力園・校での生活科を中心とした連携活動の実践交流を中心として、お互いの理解を深めながらそれぞれの「ねらい」を持った連携活動の充実に向けて研修を深める。

## H30年度 取組の内容

- ① 「保幼小連携協力園・校」での年間計画の作成・推進・評価
- ② 連携活動の実践研究  
(平成30年度連携モデル園・校・・・新舞鶴小学校・やまもも保育園・昭光保育園・シオン幼稚園)
- ③ 保幼小連携活動研修会(3回)の開催

## 保幼小連携活動研修について

### 第1回研修会(8/17 金)

「保幼小連携協力園・校」での指導案検討・作成研修会

### 第2回研修会(11/6 火)

連携活動の公開授業・保育研究会

(平成30年度連携モデル園・校 新舞鶴小学校 やまもも保育・シオン幼稚園)

### 第3回研修会(1/29 火)

『記録シート』を活用したグループワーク

## 保幼小連携活動研修について

### 第1回研修会(8/17 金)

「保幼小連携協力園・校」での指導案検討・作成研修会

### 第2回研修会(11/6 火)

連携活動の公開授業・保育研究会

(平成30年度連携モデル園・校 新舞鶴小学校 やまもも保育・シオン幼稚園)

### 第3回研修会(1/29 火)

『記録シート』を活用したグループワーク

## 第2回研修会(公開授業・保育研究会)

11月6日(火)

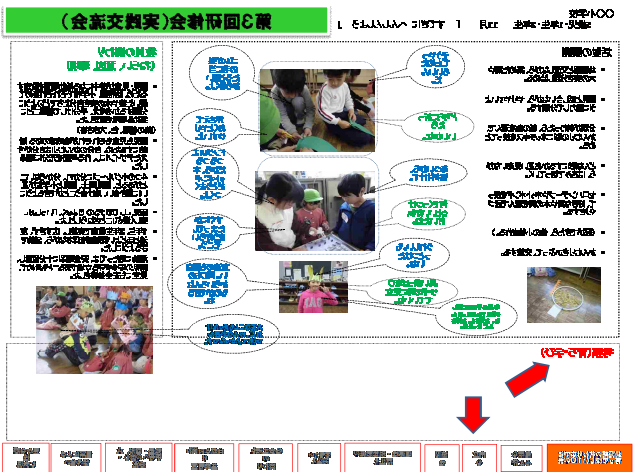
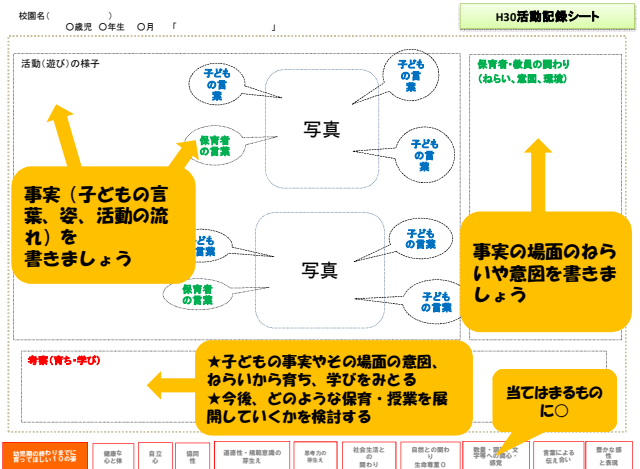
市内の保育園・幼稚園・小学校教諭が参加

新舞鶴小学校 1年生  
やまもも保育園 5歳児  
シオン幼稚園 5歳児

「あきのなかよしかいをしよう」

### 木下 敬彦の指導観経より

- ・互恵性・連続性のある連携活動になっていたか(幼児)・・・遊び込む(児童)・・・学び込む  
⇒保幼小共に『自己発掘』していたか
- ・教師、保育士は一人一人の子どもの学びを語るか
- ・生活科の視点で『気付き』のある授業であったか
- ・遊び込める活動であったか



## 学んだこと・来年度の実践に生かすこと

- ・ 子どもの育ちや学びをみとる**評価(記録・省察)**の力をさらに付ける。  
⇒「記録シート」の作成を通して・・・
- ・ **気付き**や**探究**が生まれる連携活動にする。  
⇒例「作って何に気付いたか」 **導入・振り返り**
- ・ 保育や授業を**変えよう**とする意識をもつこと。  
⇒ 保育や授業の**質の向上**  
⇒ 子どもの学びや気付きの**質の向上**

## H30年度 保幼小連携活動モデル校の実践より

モデル校 舞鶴市立新舞鶴小学校  
シオン幼稚園  
やまもも保育園  
昭光保育園

舞鶴市立新舞鶴小学校  
山宮 富美

5月に、各担任が集まって会議を持ち、年間計画を立てました。昨年度は、5歳児がほかの園の友達とも交流する機会ができるようにという思いから、3園でそれぞれ3グループを作り、小学校3学級と交流しましたが、日程調整の大変さや、園の担任の園児把握の視点から、今年度は、1学級と1園で交流することとなりました。活動内容としては、1学期にシャボン玉遊び、2学期に秋見つけと木の実等でのおもちゃ作りを一緒にすることになりました。

### 連携活動 シャボン玉遊び



6月のシャボン玉遊びでは、事前活動として、園では、シャボン玉遊びにあらかじめ取り組み興味を高めておくこと、小学校では、生活科の中で、遊びを工夫することをねらいとして、道具やシャボン

液、遊び方の工夫を話し合ったり作って試したりすることを、それぞれ行いました。また、小学校から、子どもたちが考えて作った道具をポスターにして園に届けるなど、互いの関心が高まるよう、文面での交流も行いました。

当日は、園からもシャボン玉遊びの道具を持ってきてもらい、小学校で、いろいろな道具でシャボン玉遊びを楽しみました。活動形態としては、1年生の班(4~5人)と、園児(2~4人)でグループを作って活動しました。名前を覚えたり、おすすめの道具を紹介したりと、交流している様子もありましたが、全体的に、それぞれが個々で楽しんでいる様子であり、交流は浅いと感じました。何より園児の緊張感が高く、表情の硬い子が多かったように思います。

この活動の反省点を踏まえ、10月の秋見つけは、園児にとってなじみのある、園の近くの公園で行いました。1年生が園に迎えに行き、園児がよく知っている公園で活動したことにより、園児がリラックスして生き生き取り組んでいるように感じました。また、今回は、1対1のペアを作ったことで、より関係を深められたように思います。

11月のおもちゃ作りでは、秋見つけで拾った木の実等を用いて工作をするコーナーを開き、行きたいコーナーに行き作り遊んだりすることになりました。保幼小が、招待する側・される側にならず、お互いが自己発揮できるように、園児もコーナーを開きました。また、コーナーの仲間の中で、教える人・遊びに行く

人の役割交替も、自分たちで時間を意識して行うようにしました。ペアは作らず個人の興味関心で活動する形態でしたが、コーナーでのやり取りを通して様々な交流が生まれ、シャボン玉遊びの時に比べると、園の子どもたちも自分の思いで主体的に活動できるようになり、1年生もより積極的に関わるようになったと感じます。

### 連携活動 おもちゃ作り



### 連携活動 おもちゃ作り



これらの活動を通しての、成果と課題、学んだことについてお話しします。

まず、園児と1年生、相互に力を発揮する設定をすることの大切さです。ともすれば小学校主体の活動になってしまいがちです

が、今回、園からもおもちゃ作りのコーナーを出したりシャボン玉の道具を持ってきたり、園の近くの公園で活動したりし、園の活動や生活、園児の活躍から1年生が気付いたり学んだりする機会が多くありました。それらを、5歳児としてのねらい、1年生の生活科の教科学習としてのめあてに的確に位置付けていくことが大切だと考えます。

また、おもちゃ作りの活動を公開させていただき、事後研では、はじめや終わりの会、感想交流を行うなどの形式や、看板作りや司会や紹介の練習など事前の段取りにこだわりすぎているのでは、というご指導を受けました。

「準備・練習してきたことをうまくする」のではなく、「気付きや思いのある活動にしていく」必要があります。そこに、園児・1年生ともに、充実感や達成感を持たせたり、小学校で育てるべき「集団としての力」を高めたり、生活科という教科学習としてのねらいを的確に位置付けたりすることが今後の大きな課題と考えます。

また、活動形態については、初期ははっきり相手を認識できる二人組、そしてそれを基にしたグループ、交流活動に慣れてきたら興味関心に基づいて活動する、と徐々に広げていくことが、自分らしさを出してのびのびと活動していくためのよいのではないかと感じました。

今年度の活動を通して、園で大切に考えている力や活動に触れることができ、連携の持ち方や、子どもたちの気付きを高め思考を深めるために大切な視点を学ぶことができました。ありがとうございました。

### 連携活動 おもちゃ作り



### 連携活動 シャボン玉遊び



道具を工夫して・・・

# 保幼小中接続カリキュラム策定会議 報告

## 1 保幼小中接続カリキュラム策定の趣旨

2018年4月施行

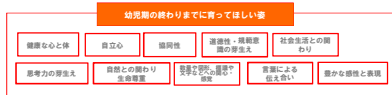
保育所保育指針 幼稚園教育要領

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

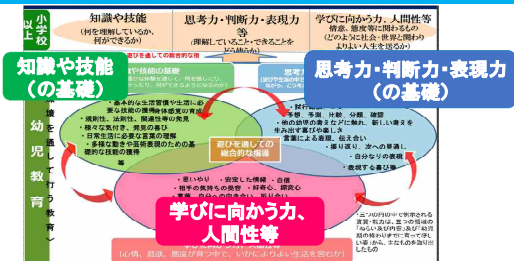
⇒保育・教育において「育みたい資質・能力」や、5歳児終了時まで  
に育ってほしい具体的な姿である「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」が明確に

2020年4月施行 新学習指導要領

⇒すべての教科において**3つの資質・能力**



## 1 保幼小中接続カリキュラム策定の趣旨



乳幼児期から小・中・高等学校へと育みたい資質・能力がつながる

## 1 保幼小中接続カリキュラム策定の趣旨

舞鶴では...小学校区ごとに連携協力圏・校をつくり、5歳児と1年生が連携活動を体験。保育者・教員は充実した互恵性のある連携活動に  
するため、研修や公開授業・保育等において学び合う。

連携活動の継続・充実を図るため...5歳と1年生の接続期に限定し、カリ  
キュラムを策定するつもりだったが...議論を進めていく中で...

「舞鶴市教育振興大綱」  
「ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども」の育成をめざし、  
**0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実**を図る

乳幼児教育(0歳から5歳)と小・中・高等学校教育(6歳から15歳)を**「まいづるカリキュラム 015」の姿**でつないでいく

## 2 保幼小中接続カリキュラム策定会議 メンバー

- 会長：溝邊 和成（兵庫教育大学大学院）
- 私立保育所園長代表 2名、私立幼稚園園長代表 2名
- 同保育士代表 2名、幼稚園教諭代表 2名
- 公立保育所・幼稚園長各 1名、同保育士 1名
- 小学校長代表 1名、小学校教諭代表 2名



保育所・幼稚園等の関係団体から代表者を選出

※新たに、中学校長代表1名、中学校教諭代表1名を加える（全17名）

## 3 保幼小中接続カリキュラムの策定の経過（平成30年度）

- ・1年目(H28) ……保幼小連携等について研修、意見交換
- ・2年目(H29) ……具体的な議論と事例収集・検討
- ・3年目(H30) ……接続カリキュラム策定

年度	内容	場所
平成30年6月7日(木)	・昨年度の経過報告、今年度の取り組みについて提案 ・事例検討、事例に関連するねらい、内容等について検討	市役所 4階 413会議室
平成30年7月17日(火)	・「確かな連携」(保育・指導要領、発達支援・個別支援計画の 取り扱い)現状、課題について意見交換	市役所 4階 413会議室
平成30年10月18日(木)	・事例検討、事例に関連するねらい、内容等について検討 ・カリキュラム(案)提案を検討	市役所 6階 大会議室
平成30年12月13日(木)	・事例検討 ・カリキュラム(案)について意見交換	市役所 6階 大会議室

## 3 保幼小中接続カリキュラム策定の経過（平成30年度）

日程	内容	場所
平成31年2月15日(金)	説明「保幼小中接続カリキュラム まいづるカリキュラム015」 講演「まいづるカリキュラム015の意義とこれから」 講師：溝邊 和成氏(兵庫教育大学大学院 教授)	商工観光センター4階 展示交流室

## 保幼小中連携研修会

日程	内容	場所
平成31年2月15日(金)	説明「保幼小中接続カリキュラム まいづるカリキュラム015」 講演「まいづるカリキュラム015の意義とこれから」 講師：溝邊 和成氏(兵庫教育大学大学院 教授)	商工観光センター4階 展示交流室

## 5 まいづるカリキュラム 015の内容 (1)特徴

☆0歳から15歳までを切れ目なくつなぐ

0歳から5歳の『乳幼児教育ビジョン』をスタートとして、6歳から15歳  
までの『小中一貫教育』へとつなぎ、0歳から15歳までを切れ目なく  
つないでいる。

☆育ってほしい10の姿の視点

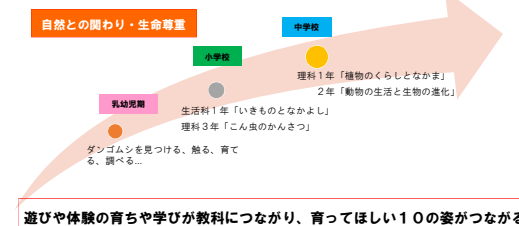
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児の終わりに見られる姿  
とされているが、内容的にはそれ以降に必要な資質・能力であること  
から、0歳から15歳の子どもの姿をこれらの視点で捉えている。

☆舞鶴の豊かな自然を活用した実践事例

0歳から15歳までの各園・校の乳幼児教育・教育の実践事例を収集・検  
討した内容をもとに事例を作成。舞鶴の豊かな自然を活かした遊びや体験、  
授業が多く取り上げられている⇒**舞鶴らしいオリジナルのカリキュラム**

## 5 内容 (1)特徴

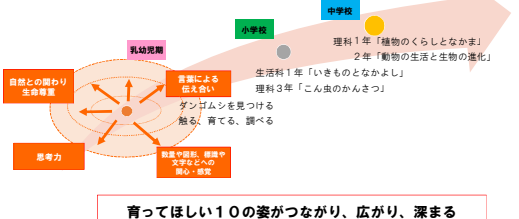
☆つながり



遊びや体験の育ちや学びが教科につながり、育ってほしい10の姿につながる

## 5 内容 (1)特徴

☆つながり



育ってほしい10の姿がつながり、広がり、深まる

## 5 まいづるカリキュラム 015の内容 (2)全体像

領域	内容	資質・能力
言語	話し言葉の発達 読書の楽しさ 書く楽しさ	読解力 思考力 表現力
算数	数の概念 図形 図表	数感 空間認識能力 図表の読み取り能力
理科	身のまわりの自然 身のまわりの社会	観察力 実験力 問題解決力
社会	身近な社会 ふるさと	社会生活力の関わり 規範意識 責任感
芸術	音楽 絵画 造形 ダンス 劇	表現力 鑑賞力 創造力
体育	基本動作 運動遊び 運動会	運動能力 健康意識 規範意識
外国語	英語 外国語	外国語能力 異文化理解力
情報	情報活用能力 情報セキュリティ	情報活用能力 情報セキュリティ
道徳	道徳教育 生活習慣	道徳力 生活習慣
総合	総合的な学習の時間 探究学習	総合的な学習の時間 探究学習
特別活動	朝会 集会 行事 部活動 委員会 児童会 生徒会	リーダーシップ 責任感 規範意識
キャリア教育	職業体験 職業講話 職業見学	職業理解 職業意識 職業観
生涯学習	生涯学習 生涯学習	生涯学習 生涯学習

## 5 内容 (2)全体像

領域	内容	資質・能力
言語	話し言葉の発達 読書の楽しさ 書く楽しさ	読解力 思考力 表現力
算数	数の概念 図形 図表	数感 空間認識能力 図表の読み取り能力
理科	身のまわりの自然 身のまわりの社会	観察力 実験力 問題解決力
社会	身近な社会 ふるさと	社会生活力の関わり 規範意識 責任感
芸術	音楽 絵画 造形 ダンス 劇	表現力 鑑賞力 創造力
体育	基本動作 運動遊び 運動会	運動能力 健康意識 規範意識
外国語	英語 外国語	外国語能力 異文化理解力
情報	情報活用能力 情報セキュリティ	情報活用能力 情報セキュリティ
道徳	道徳教育 生活習慣	道徳力 生活習慣
総合	総合的な学習の時間 探究学習	総合的な学習の時間 探究学習
特別活動	朝会 集会 行事 部活動 委員会 児童会 生徒会	リーダーシップ 責任感 規範意識
キャリア教育	職業体験 職業講話 職業見学	職業理解 職業意識 職業観
生涯学習	生涯学習 生涯学習	生涯学習 生涯学習

## 5 内容 (3)カリキュラム・事例の見方

領域	内容	資質・能力
言語	話し言葉の発達 読書の楽しさ 書く楽しさ	読解力 思考力 表現力
算数	数の概念 図形 図表	数感 空間認識能力 図表の読み取り能力
理科	身のまわりの自然 身のまわりの社会	観察力 実験力 問題解決力
社会	身近な社会 ふるさと	社会生活力の関わり 規範意識 責任感
芸術	音楽 絵画 造形 ダンス 劇	表現力 鑑賞力 創造力
体育	基本動作 運動遊び 運動会	運動能力 健康意識 規範意識
外国語	英語 外国語	外国語能力 異文化理解力
情報	情報活用能力 情報セキュリティ	情報活用能力 情報セキュリティ
道徳	道徳教育 生活習慣	道徳力 生活習慣
総合	総合的な学習の時間 探究学習	総合的な学習の時間 探究学習
特別活動	朝会 集会 行事 部活動 委員会 児童会 生徒会	リーダーシップ 責任感 規範意識
キャリア教育	職業体験 職業講話 職業見学	職業理解 職業意識 職業観
生涯学習	生涯学習 生涯学習	生涯学習 生涯学習





## 【話題提供】

さくら保育園長 倉梯幼稚園副園長 森田達郎氏

＜公開保育を実施してから現在までの変化＞

◎H28年度より、行事中心の一斉保育から日々の保育を、遊び中心の保育(子ども主体の保育)へと、保育方針を変換していった。

◎年齢発達に応じた環境への変換をおこない、乳児は愛着を大切にすることを大事にしていった。しかし、保育者の動き方など、わからないことがたくさんあった。

◎職員一同で研修に参加し、公開保育に参加することでより具体的な環境や子どもの様子を知ることができた。

＜園長、副園長、保育者で相談したこと＞

◎以前は、何もない保育室に必要な時に保育者が選んだ玩具を出して遊んでいたが、子ども達が選んで遊べる環境に変えていった。

◎子ども達のために、行事を軽減したいと考え、行事、参観日に保護者への説明を行ったり、手紙の配布を行った。

◎保育室にはコーナーを設置し、発達に沿った玩具を考え、環境を整えていった。

◎保育者は、0～2歳児は、大人との愛着形成を大切に、3～5歳児は、言葉にして遊びをつなげることに配慮した。

◎子どもが自分で考え、結論を導き出すことも大切にし、遊びの見直しを行った。

◎遊びの中で子どもが成長発達し、育っていくことを大切に、遊びが途切れないよう流れを考えて変えていった。

◎設定保育は全員ではなく、コーナー

の一つとして自分で選んでできるように工夫した。

＜保育や行事を見直したことでの変化＞

◎乳児クラスでは、保育担当性を導入し、愛着を基盤とした個別対応に変えていった。食事は全員が一緒ではなく、子どもに合わせて時間差で食べるようにした。

◎遊んでいるときの表情や動き、言葉が豊かになってきた。「こういうことをやってみたい」「作ってみたい」という思いが子ども達から発信されるようになった。

◎保育者は、子どもの姿をよく見て、子どもの言葉に耳を傾けるようになった。また、保育者同士でよく話し合うようになった。

◎「今日この箱持っていき」「～を作る」など、子どもが園でしたいこと等を話すようになったとの声が保護者から聞かれるようになった。

◎日常生活から遊びが広がり、模倣からごっこ遊び、大きくなってくるとやりとりをしながらお店屋さんごっこなどをする姿も見られるようになった。

◎幼児クラスでは、子ども達同士で発表し合う姿も見られるようになった。

◎保育者が入るだけでなく、子ども達の中で遊びが広がるようになった。

＜公開保育後の行事の見直し＞

◎遊びに没頭できるようにするため、9月に行っていた運動会を7月に開催した。

◎これまで生活発表会は、保育者がセリフや衣装を準備していた。それを子ども達が自分で台本や衣装を作って行うようになった。

＜公開保育の課題＞

◎公開保育では、意見交流ができるため、違った視点からの意見で新たな発見ができる。また、公開園は公開日まで話し合いを進め、保育の見直しができる。しかし、普段どおりの保育とは言いながらも事前準備には労力がかかり、いかにその負担を軽減してどの園も気軽に公開できる形を作ることが必要である。また、公開することで自分の園の特色をさらけ出す、魅力がなくなると考えることもあるかもしれない。公開保育の良さを周知することや、参観だけでなくカンファレンスにも参加することが大切だと考える。



公開保育に向けて その後  
京都府舞鶴市  
社会福祉法人倉梯福祉会  
さくら保育園 園長 森田達郎

### 平成28年度から保育方針を転換

- 行事中心の一斉保育から、日々の保育の遊びを中心に子ども主体の保育に切り替える



平成28年3月から、年齢の発達に応じた保育環境になるよう、保育室、生活環境、子どもの動線、おもちゃの転換を進める。

乳児は、いかに愛着を大切に大人を信頼できるかという保育を目指す

ただ具体的な保育者や子どもの動きなど分からないことが多くありました

- そうした中、舞鶴市では「乳幼児教育ビジョン」として、公私立・保育園・幼稚園の垣根無く、舞鶴に住む全ての子どものために乳幼児関係団体が合同の研修を実施していたため、職員一同で参加することになりました。各園の公開保育を見せていただき、具体的な環境や子どもの様子を知ることができました



### 行事を含めた保育の見直し

- あそびについて

今までは行事の練習や、設定、製作の時間＝保育  
上記の保育の間の休み時間＝あそび（自由あそび）

### 見直し

保育＝あそびの中での成長・発達

していくものだと考え、一律に同じ作り物を季節ごとに行うことをやめた。また、朝の集まりや体操によって、あそびが途切れないように工夫した。設定保育は一斉にせず、コーナーごとに小さな設定保育を個別に行うようにした。





そして公開保育 当日 平成28年11月11日



事例1 平成28年11月～

○きっかけは3歳児が、ままごとコーナーで鍋やフライパンを叩いて音を出し、まわりに迷惑をかけていた。しかし、担任は注意するのではなく楽器に興味があるのかと考え、子どもたちに楽器作りを提案

○すると楽器作りに没頭



公開保育当日



○誕生会で披露

○年長児とセッション



○クラスで発表

○年長児にも発展



生活発表会で披露

そして・・・

○ドラムの子は気持ちを落ち着かせるときに叩いて、落ち着くと次の遊びに移動するようになりました。そしてドラムも、どんどん進化していきました。



○Q、保育や行事を見直したことで何が変わったか？

乳児は保育担当制にし、愛着形成を基盤とした個別対応に変わった。食事は一斉に食わず、時間差の食事にした。幼児は表情、動き、言葉などが子ども発信に変わった。作ってみたい意欲（お店屋さん・楽器など）が出てきた。

保育者：子どもの姿をよく見る

子どもの言葉に耳を傾ける

保育者同士で話し合うようになった

保護者：「今日、このお菓子箱持っていて電話作ってくる」「〇ちゃんと先生ごっこしとった」など次の日したいことを考えて夜過している。

・なんでも自分から考えて行動するようになった。

※保護者アンケートより



○公開保育後の行事について

参観日 運動会 作品展 生活発表会 など

見直し

運動会

夏や秋の遊びに没頭できるために

例年9月だったものを7月に変更

練習を遊びの一つにして、楽しめるように工夫。

自分たちで作った衣装や考えて振り付けした踊りを踊ります。



子どもたちが決めて作った妖怪

発表会

先生が作った衣装・決められた台詞から、

自分たちで台本・役割・配役を決めて行う。

自分の衣装は自分で作る



演者とBGMに担当が分かれた

公開保育の効果と課題

○効果

本の写真や映像でなく、他園の保育を実際に見ることで新しい気づき（保育環境・保育者の様子・子どもの動き）を得ることが出来る

公開保育の参加者は見るだけでなく、子どもの声や保育者の動き・環境などを記入して、後半のカンファレンスで担任の工夫や苦勞、講師のアドバイスを聞き、意見交流をすることで、疑問を解決したり新しい発見をすることができる

公開保育の効果と課題

○課題

公開園は公開日まで研修をしたり話し合いをすすめて、保育について改めて確認することができる。しかし、指導案等の事前準備にかかる負担も大きい。いかに現場の保育者にとって負担を感じさせない公開保育にしていくことが課題

あと公開をすることが園の特色をさらけ出してしまい魅力を奪われてしまうと思う園もあるのではないだろうか

公開保育の良さの周知も必要だと思う

公開保育参観で終わりでなく後半のカンファレンスまでないと効果は半減する

参観だけでは「良かったけどうちでは無理」ということで終わってしまう。良かった部分を自園で活かして初めて効果があったと実感する

【話題提供】

うみべのもり保育所長

島田久子氏

＜公開保育について＞

◎カンファレンスで保育の良いところを認めてもらい、課題も教えていただける。

◎公開保育に参加することで自分の保育の改善のヒントをもらえる。

＜ドキュメンテーションについて＞

◎ドキュメンテーションは 保護者と保育所、保護者同士、保育者同士、保育者と子ども、子ども同士をつなぐツールと言える。

◎ドキュメンテーションを見ながら話してくれる保護者もいる。

◎保育者として成長、進化できる。

◎1番子どもを理解しているのは担任であるが、担任ではないところからの意見も言えたらよいと考えている。

◎ドキュメンテーションを日誌にすることで、保育者自身が子どものよさ、保育のおもしろさ、試行錯誤、悩み、子どもの成長への喜びに気付くことができる。

◎また、担任以外の者は、ドキュメンテーションを読むことでクラスのこと、子どものことが把握できる。

◎保育者からの、子どものためにやってみたいという思いは、できるだけバックアップしたいと考えている。

＜子ども主体の保育について＞

◎以前は遠足の行き先等、決められた場所に行くことが多かったが、今は子どもが興味や関心を持っていることや、子どもの姿から行き先を決めている。そのことで、遠足から帰ってからの子どもの遊びが豊かになったと感じる。

◎地域の方にも協力してもらい、保育所がおこなっていることの発信や、社会とつながっていくことも大切である。

＜ニーズの多様化する保育現場で、職員の資質を高めるために＞

◎誰にでも得意、不得手がある。不得手なことは自分でも分かっていることが多いので、所長として、保育者が自分の良さに気付くような働きかけをしたいと考えている。

◎健康管理が何より大切であり、辛い時は自分で言える、周りもそれに気付けるような職場環境にしていくことが大切である。

◎健康でないとモチベーションもあがらないため、子どもが困ることにもつながってしまう。

◎業務量の管理については、書類の優先順位をつけ、無理なく効率よくできるようにすることが大切だと言える。

◎保育者自身が、自分はここに必要であると思え、自分の力が発揮できる職場であることが大切だと言える。

◎職員がお互いに改善点を指摘し合えるようなチームを目指したい。

園長としての振り返り反省

最初のころは、特に、公開保育でよい所を、しっかりとした保育を見てもらわなくては、という気持ちが強かった。

公開保育の目的を見失う。叱咤激励・・・



職員の気持ちやモチベーションに、しっかり向き合えていたのか？

せかして、職員に考える時間を持ってもらえてなかったのではないかな？ドキュメンテーションを書く大変さを理解していたのか？と先走っていたことが今になって良く分かる。



反省してます・・・

公開保育の効果

・自園の公開の場合は、そこに向かっていないわけではないが、皆さんに見て頂くという思いが、**環境の見直しや、保育の振り返り**の精度を上げている。第三者に見て頂く事で、**気付き**がある。**その時の現場に合わせて、認めて下さる。**

**自分ならこうすると課題を知らせてくださる。**

・他園の様子を見る事で、**保育改善のヒント**がもらえたり、客観的な立場として見る事で、**子どもの姿はどんなか？自園はどうだろうか？と、振り返ることができる。**

・**皆さん頑張っておられるな！と、力をもらえる**

★25年度、26年度、28年度、29年度続けて公開保育受けたが、**継続で公開させてもらったことは、課題に取り組むという点で、ありがたかった。**

園長として取り組んだこと、といっても・・・

可視化・プロジェクト型保育についてスタートは職員と一緒に。(本の購読、園内研修、自園の公開保育、他園の公開保育など)



職員の実践とドキュメンテーションで、

**共に学ぶ**

**職員から学ぶ**

(一番子どもをよく理解してくれている)

私は、担任ではないものの視点で・・・

ドキュメンテーションは職員との間をつなぐツール

＜当初は取り出し型、今は日誌形式＞

そこには・・・こんな職員の姿が

・子どもの良さや、保育のおもしろさに気付く姿。  
・発達を今まで以上に意識する姿。

・子どもの今の興味ややりたいことを認め、どう支援するか試行錯誤する(悩む)の姿。

・子どもの成長、集団の変化に喜び、保育士として成長、進化する姿。

共感・感謝

やりたいことをバックアップ

・子どもの姿興味から、こんなところに行ったら、もっと遊びがふかまりそう！

・こんな体験をしたら、遊びの内容がもっとリアルになりそう！ ↓

【例】商店街にお買い物・陶芸館に器作り・スーパーにお買い物・ふるるファームにピザ作り・クッキー作り・田辺城探検・農家探訪・大江山に鬼探検・豆腐屋見学など

**地域の方にも力を貸してもらい活躍してもらおう。**

(老人会の方・商店街の方他)

★子どもと常に一緒にいる保育士の力を信じ思いに寄り添う。

それぞれの自己発揮

だれにでも、得意な所、不得手なところがある。あなたにも、私にも。

それぞれの良さに自分が気がつきそれを発揮できているか？を考え、

★良さに気付ける働きかけをする。

もちろん指導や助言しなければいけない事も

★担当にまかせる。

まかせたら、失敗や不具合があってもまかせた自分にも責任があるという姿勢



## ニーズの多様化する保育現場

職員のモチベーションの持続を図り資質をあげて行くこととする時必要なこと

↓

- ・心身の健康管理<<自己及び周りは気付いて声掛け出来るか>>
- ・業務量の管理<<優先順位>>  
(書類・効率のよい会議・勉強会の持ち方の工夫)
- ・それぞれに自己有用感を感じられる関わり。
- ・職員とのコミュニケーション。現場の事を知る。

☆そうした土台があった上で、保育内容を語りやすい、良い事も、改善点もお互いに言い合えるチームそんな風になったらいいなと考え行動していきたい。

玉川大学

教授 大豆生田 啓友先生より

(話題についてのコメント、質問等)

～森田園長の話提供を受けて～

「保育観ピフォーアフターのコツ」

◎何かをしようとするときに「モデル」があることは大切であり、舞鶴市には公開保育のモデルがあった。他の地域にも出向いて学び合うことや保育を公開することで相手との関係ができ、学びあい、進化できると言える。

◎保育の転換にあたっては、パートナー＝仲間を作ることが大切である。

研修に行き、学んで園に持ち帰っても1人で何かを変えることは大変ではないか。園の中で一緒に変えてくれる仲間を作ることが大切と言える。

◎行事中心の保育から、子ども主体・遊び中心の保育に変換するにあたって、保護者にどう説明するのが大事ではないかと言える。

◎設定保育をコーナーに持ってくるのは一つの方法として良いと思う。

◎実習についても、一斉保育のみなのはおかしいのではないか。部分実習をする際も一斉保育ではなく、遊び発展型の実習が望ましいと考える。

◎公開保育の負担軽減については、「がんばって見せよう」と思わないことが大切ではないか。

～島田所長の話提供を受けて～

「園内で育ちあう風土づくりのコツ」

◎公開保育に向けて、遊びを一番盛り上げようとせず、普段通りにすることで公開保育の負担軽減につながるのではないか。

◎現場の中に職員の気持ちやモチベーションについて、考える人がいることは大切である。職員がどれほど努力しているかを、どう発見して返していけるかが大事だと言える。

◎上の立場から指導するのではなく、一緒になって学ぶ、同伴者になることが大切である。

◎ドキュメンテーションについて  
(取り出し型から日誌型への変換)

写真を撮りながら保育することで、何となく1日を過ごしていた状態から、子どものことがよく見えるようになる。写真そのものにコメントを付けたり、事例に写真を添えるのではなく、写真から学びが見えてくる。

大豆生田先生からの質問への回答

Q. パートナーとの連携について

A. (森田園長)

・副園長と相談し、一緒に悩んで保育の変革に取り組んできた。それを職員が理解し、行動に移してくれている。

・色々な提案をすることで、職員には負担をかけているかもしれないが、子どものためにと話し合っている。

Q. 保護者理解について

A. (事務局)

さくら保育園 保護者アンケートより

・以前に比べ保育が変化したか、という質問については、回答の8割以上が変化したというものであった。

・特に変化したと感じる点については、「行事」「環境」など、保護者にとって見えやすく分かりやすいものが多かったが、見えにくいと思われる保育内容についても、変化したと感じるという回答も多く見られた。(行事等の際に、保育について保護者に説明を行う等)

日々の保育について、可視化がしっかりとなされていることが伺え、このことから、保育の可視化が大切であると言える。

・子ども中心の保育になったことで、子どもが自分で考える力がついたとの回答もあった。

うみべのもり保育所 保護者アンケートより

・ドキュメンテーションについての質問では、自由記述の回答において、「子どもと保護者、また保護者同士が、ドキュメンテーションを介して会話をしている」「ドキュメンテーションに書かれている保育者の子どもへの関わりや会話が参考になる」等の意見があった。

・1人の興味がクラス全体の興味へつながっていると感じている保護者もあった。

Q. 公開保育の負担軽減について

A. (森田園長)

・舞鶴だけではなく、色々な所から見学に来られることもあり、どうしても構えてしまう面がある。何も準備せずに、見学にだけ来られる日があってもよいのではないか。公開保育を大きなイベントにするのではなく、園同士の交流という形で保育を公開することで、公開保育の負担が軽減されるのではないかと考える。

Q. ドキュメンテーションについて

A. (島田所長)

・以前は、子どもの遊びの中から場面を切り取り、日誌とは別にドキュメンテーションを書いていた。取り出し型から日誌型へ変換した背景として、1つには業務負担の軽減がある。さらに、もう1つの理由としては、子どもの遊びは続いていき、つながるものであり、場面を切り取るよりも毎日の姿を書ける方がよいと考えた。日誌型のドキュメンテーションにすることで、遊びの時系列が分かりやすくなった。

・欠席や特記事項の記入欄もあるため、監査にも通るものとなっている。

・現在は、職員が時間を工夫して、ドキュメンテーションを書いているが、ドキュメンテーションも含め、記録を書くための時間はしっかりと確保する必要がある。今後の課題とも言える。

Q. 同伴者(共に学ぶ人)としてのリーダー(ファシリテーター)の役割

A. (島田所長)

・自分自身は職員それぞれに、色々なことを任せようとしている。その中で、職員は自分達から気付き、「こうしよう」と行動したり、「こんな物を作ってみよう」と、主体的に行動している。そして、行動した結果、子どもの様子がどのように変化したのかを教えてくれている。

・これらの姿に、職員一人一人の主体性が育っているのだなと嬉しく感じている。それとともに、子どもも職員も主体性を持つことが大切であると改めて実感している。

